

皆様、おはようございます。桜が今にも咲きそうな、半そでで気持ちの良いような陽気から一転、雨と共に震えるような寒い日々がありました。今日はまた気持ちのよい爽快な晴天の空です。今週はずっと暖かい陽気になりそうです。

暖かかったり、寒くなったりという忙しい天候の中、身体がついて行くのが大変と思う時もありますが、皆様ご自愛くださいませ、栄養と休養をしっかりとっていただきたいと思います。

さて受難節の箇所、今日はヨハネ15章が開かれています。

有名な、「わたしはまことのぶどうの木」との聖書の箇所です。

神様をぶどうの木、私たちをぶどうの枝と例えるのはユニークであると思います。ここで語られているテーマは、あなたと私とは一緒だよというメッセージです。「つながっている」という言葉は、この箇所の中に10回以上登場します。切っても切れない、離れられない存在であり、一体であり、一つ体であり、命を共有している共なるからであるという事が語られています。

「わたしはまことのぶどうの木」の「まことの」というのは、どういう意味でしょうか。まことではない、偽物のぶどうの木があるという事でしょうか。この「まことの」という言葉は、ギリシャ語では、真正なる、本物のという意味のほかに、「頼ることのできる」と

という意味があります。

私たち人間は独りでは生きていけないという言葉をよく耳にします。本当にそうだなあと思います。どこかに身を置いて、拠り所があり、居場所がある、仲間がいるというのは幸いです。イエス様は、私にとどまりなさい、わたしが本当のあなたの宿の木、あなたのいるべき場所だ、休み場だ、頼ることのできる母なる港だと語られます。

わたしの父は農夫である。

2 わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。

実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき・・・農業の話であれば、これはもっともて自然なことなのですが、私たちが枝にたとえられている今は、少し恐ろしいような思いがいたします。

3 あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。

4 わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながってしよう。枝がぶどうの木につながってなければ、自分だけでは実を結ぶことができないよう

に、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。

さっきの、枝を選定してきれいにするという言葉と、あなたがたは、わたしが語った言葉によって既に「きよく」されているという言葉が掛詞となっています。

このイエス様の「言葉」とは、この後の出てきます「わたしが命じること」という事とセットになっています。

そして、ぶどうの枝のたとえであれば、「実を実らせる」というたとえも出てきます。

私につながって、言葉に聞き従い、実を実らせる枝でなければ、取り除かれる…今日の個所のお話は、こういう私たちに恐怖を与える、〇〇しなければ、〇〇になるというようなお話ではありません。

一体どこに、幹につながっていない枝があるでしょうか。そして、神様が幹であれば、イエス様のぶどうの木であれば、気が良ければ、どうして良い実が実らないはずがあるのでしょうか。

ルカ 6:43 悪い実のなる良い木はないし、また良い実のなる悪い木もない。

6:44 木はそれぞれ、その実でわかる。いばらからいちじくを取ることはないし、野ばらからぶどうを摘むこともない。

イエス様は、「悪い実のなる良い木はない」とおっしゃったではありませんか。

私たちは、かつて一人ぼっちで、孤独で、私たち自身を愛してくれ、大事にしてくれる人を探していました。時にして親でさえ、友でさえ、周りの味方でさえ、完全な存在ではないのだなと思い知らされる時がありました。そのような中で、イエス様は、わたしはまことのぶどうの木、完全なる、信頼できるあなたの家だよ、帰るべき港だよと教えて下さいました。私にしっかりとつなぐれ、結ばれ、一つとなって、苦楽を共にしていこう、私はいつもあなたを愛してあなたに生命を与え、私の命を与え、肉をも血をも与え、あなたを贖い、私の命の言葉を与えてあなたをきよめ、励まし、力づけようと語られたのです。

イエス様の語られるお言葉は、命の言葉であって、私たちが信頼するに足る言葉です。私たちを愛し、私たちを友と呼び、その命を与えても構わないと、私たちのために身代わりとなって下さったお方、私たちをこの上なく愛して下さる方のお言葉を聞き、それに従うことは私たちにとっての喜びなのです。

枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。

実を結ばなければ失格だ、切り捨てるぞという事ではなくて、あなたは私にしっかりとつながって生きることを願い、望んでいるから、私のいのちにあずかって、私からの力によって実を結ばせることが出来るんだよ、でもあなた方自身の力では何もできない、そういう弱い存在であるという事を知っておきなさいという事を話しておられるのです。私たちはもともと実を実らせることなんかまったくできないものだったのです。しかし、わたくしたちがイエス様と共にあるのならば、それ以前の生活に比べて、私たちは驚くような働きをし、その結実を見ることが出来ます。

5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

6 人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げすてられて枯れる。人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。

7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

8 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

私たちはもともとつながっていませんでした。そして神様の御力のこと、十字架の愛のこと、癒しのこと、励ましのこと、身代わりのこと、神様が私たち一人一人を子として呼び、身許に引き寄せようとしておられることなど、何一つ知らずに歩いておりました。そしてやがては罪の支払う報酬としての死を刈り取らなければなりませんでした。

ローマ 6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

しかし、神様は私たちが生きるようにして下さり、神様とつながることが出来るようにして下さり、私たちが人生に実りを得ることが出来るようにして下さったのです。これはすべて神様のご恩寵、恵みです。

神様は、私たちが生き生きと喜びにあふれて生きるようにして下さり、喜びの生活から、私たちに周りの方々への愛のご奉仕をさせ、その喜びの実りが生ずるようにして下さ

いました。

1ヨハネ 4:9 神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

4:11 愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。

「あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。」との主の言葉、そして繰り返し語られる「わたしのいましめ」とは何であるのか。その私たちへの「戒め」とはどのようなものであり、難しいものであるのか。

「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおる」のならば、もしも守らないのならば、イエス様の愛の内にあることが出来ないのか。「人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げすてられて枯れる。人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまう」というような恐ろしいことになってしまうのでしょうか。

いえ、それはそうではありません。私たちは、ついに居場所を得たのです。神様が私たちにとってまことの居場所、私たち枝の属すべき母港、母なる地なのでした。私たちはずっとそれを求め続けてさまよいましたが、ついにその母なる地に帰ることが出来ました。

「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」という、その大きな愛をもって、私たちを引き寄せ、私たちをつなぎ合わせ、私の愛の中に居なさい、私とつながっていなさいと語られるイエス様から離れてどうして再び枝が枝のままで七転八倒して孤独であった時の様子に戻るのでしょうか。

マタイ 11:28 すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

11:29 わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。

イエス様のもとには愛があり、いたわりがあり、養いがあり、贖いがあります。



11 わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

イエス様のもとには喜びがあります。このようなお方の所には、野を分け山を越え谷を越え、失われた羊一頭のために探し続けて下さるお方が、私たちのことを心配し続けて下さるのです。そのくびきは負いやすいのです。その荷は軽いのです。主の戒め、それは、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」すなわち、主が愛して下さったように、お手本を示して下さったように、そのように、私たちも互いに愛することです。主の愛をまず受けて、そしてその愛をおすそ分けすることです。

13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

神様が罪深い者を「友」と呼んでくださるのです。もはや僕ではない。父から聞いたことを皆私たちに告げ、その神様の愛の広さを、奥義を、神様の真実のすべてを主は私たちに伝えて下さいました。そして大切に友と呼び、ただ単なる命令をするものと命令を受けるものという関係ではなくて、互いに対等な関係である「友」という身分をすら与えて下さるとは、実に驚きです。

16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

元々は神様が始めて下さったことでした。私たちが神様を始めに見出したのではなく、神様が私たちを見出して下さったのです。

自分だけでは実を結ぶことができない、主から離れて、何一つできない存在であったのに、神様は私たちを見出して下さり、立てて、任命して下さいました。もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさり、剪定され、それは時に私たちに痛みを伴う者であるかもしれないのですが、神様につながって、より多くの実を結び、主

の喜びが私たちのうちにも宿り、また、私たちの喜びが満ちあふれるため、私たちを選んで立て、任命し果て下さいました。そして私たちが身を実らせ、その実はいつまでも残るのです。私たちは、私たちにイエス様を教え、救いを伝えて下さった方へのご恩を生涯忘れることはなく、天に帰ってもそれを忘れることはないでしょう。そのように、愛と祈りの奉仕による実はいつまでも残るのです。

そのようにして選ばれ、立てられ、任じられ、実を実らせる生涯に進んだものは、かつての神様とのつながりのない力弱い時のようではなく、贖いとして来られた愛に深いイエス様の御名にすがって祈る私たちは神様に覚えられており、イエス様、助けて下さい、満たして下さい、霊を与えて下さい、祈らせて下さい、気付かせて下さい、執り成しをさせて下さい、あの方のために、御力と愛とを示して下さいとイエス様を頼って祈る祈りに対しては、その求めるものはなんでも、父が与えて下さるのです。このことを信じて、熱心に祈り求めたいと願います。

17 これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

この事柄が成るために、互いに愛し合う者となるために、イエス様は私たちの所にお越しくくださったのでした。かつては神様から離れていた者でしたが、今はつなぎ合わされ、頼りことのできるお方と共にあります。かつては自分を守ることで精一杯でしたが、

今は私たちのことを友と呼び、命を捨ててまでかばってくださる方を思い、自らの事ばかりではなくて他の方々のことも考えるようになりました。こうして父なる神様の御名があがめられるために、友とされ、選ばれ立ち上がらせていただいていることに感謝し、互いに愛し合う、天のみ国の御心が地上にもなりますように、証をしていきたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」とのイエス様の大きな愛に生かされている日々の歩みをありがとうございます。実を結ばせるのは私たちの努力によってではなく、あなたの命じる事を成すことができるのも、すべてあなたの恵みです。私たちを友と呼んでくださり、喜びに満たされ、願いが聞かれ、私たちの行いの果実が残るという祝福に感謝いたします。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン